

# 戦争法案強行採決

# 暴挙

## 憲法・民意無視

日本共産党

日本を「海外で戦争する国」に変えてしまう戦争法案。安倍政権と与党は参議院で戦争法案を強行採決しました。日本共産党は、この暴挙を断固糾弾します。



戦争法案  
3つの大問題

### 憲法違反が明確に

この法案の最大の問題点は、憲法違反だということです。圧倒的多数の憲法学者や元内閣法制局長官、そして「憲法の番人」である最高裁の元長官らがそろって「違憲」と断定しました。

政府が長年、違憲としてきた解釈を一内閣の判断で勝手に変えてしまえば、最高法規である憲法の法的安定性は損なわれます。それは憲法が権力を縛る立憲主義が土台から崩れることを意味します。

### 国民を進んで危険にさらす

集団的自衛権の行使は、我が国に対して武力攻撃をしていない国に対して、日本の側から武力の行使をするということです。日本による先制攻撃になります。相手国に、日本を攻撃する大義

名分を与えることになり、国民の命を守るといふよりも、進んで危険にさらすこととなります。ここに集団的自衛権の本質があります。

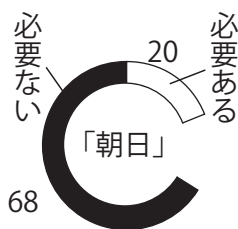
### 国民の理解得られず

世論調査では6割が「憲法違反」、7割が「今国会成立反対」、8割以上が「政府の説明は不十分」です。

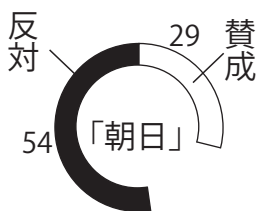
憲法も民意も踏みつけにする強行採決は絶対に許せません。



#### 法案の今国会成立



#### 法案の賛否



### 自衛隊中枢の暴走

この間、共産党が入手・追及してきた自衛隊の二つの内部文書は重大です。

#### ●戦争法案先取り

一つは、自衛隊幹部 350 人を集め、戦争法案成立を前提に法案具体化のための説明に使っていた文書。米軍と自衛隊の「軍軍間の調整所」=米軍・自衛隊の共同軍事司令部を平時からつくるなど、国会に一度も説明したことのないことがズバリと並んでいます。

#### ●アメリカ追従

もう一つは、自衛隊のトップの統幕長が昨年 12 月に訪米した際の米軍中枢との会議録。「安保法制は予定通り進んでいるか」と問われ、統幕長は「来年夏までには終了」と表明しました。国会・国民無視でこんな約束をすることは言語道断です。